

第3回糸魚川市図書館あり方検討委員会 検討事項のまとめ

1 部会の活動報告

(1) 子ども部会の活動報告

① アンケート調査(読書週間や読書活動への意識、図書館についての意見など)

対象：市内小学2年生とその保護者(回答者数 96 人／対象者 211 人)

市内小学5年生とその保護者(回答者数 120 人／対象者 269 人)

<児童のアンケートより>

- ・7割弱の児童が、読書が好きと回答
- ・1日のうち本を全く読まない児童は平日2割強、休日約4割・本を読まない理由として、他のこと(遊び、ゲーム、勉強など)をしていると回答した児童は約6割、本が苦手と回答した児童は約3割。
- ・本を読むきっかけとして、家族や身近な人からのすすめや、家の中の手に取りやすいところに本が置かれているという回答が見られた。

<保護者のアンケートより>

○課題として上げられた主な意見

- ・蔵書数が少ない、ゆっくりできるスペースがない
- ・図書館が遠い、交通手段がない
- ・忙しい、行く時間がない

○評価できる点として上げられた主な意見

- ・図書館が近い
- ・イベントや本の種類に関する良い評価
- ・学校図書館に関する良い評価

② 児童・生徒へのインタビュー

<田沢小学校>

- ・図書室に行きたくなる仕掛けなど、学校司書による工夫
- ・学区外の公共図書館に児童だけで行けない(距離の問題)

<糸魚川中学校>

- ・自身で本を購入する生徒が多い
- ・公共図書館は学習室としての利用価値が高い
- ・話せる空間と静かな空間のゾーニングの必要性

<糸魚川高等学校図書室魚川高校>

- ・市内の学習スペース不足
- ・スマートフォン等で学習室の利用状況確認ができないか
- ・高校生向けのイベントニーズあり

報告に対する主な意見、アイデアなど

<図書館利用促進策>

- ・子どもや若者向けに本の紹介を SNS で発信する
- ・学校司書との連携強化により図書館だよりを通じておすすめ本を伝える

<切り口の工夫>

- ・文豪をキャラクター化した漫画など、流行の作品を切り口に興味を持ってもらえる工夫をする
- ・登場人物をキャラクター化して紹介する(絵の得意な中高生に描いてもらう)

<距離の問題の解決策>

- ・実際に本を届けることは難しいが、本の情報を届ける仕組みを作る
- ・学校司書を経由した子どもたちへの情報提供
- ・SNS 等を通じた情報発信

<電子書籍と紙の本の共存>

- ・電子書籍や紙の本それぞれにメリット・デメリットがある
- ・タブレットや電子書籍は子どもの興味を引くきっかけとして有効
- ・紙の本の魅力と電子書籍の便利さの両立

<自由な読書環境>

- ・強制される読書感想文などによって、本を苦手を感じる場合もある(保護者アンケートより)・強制的な読書を避け、自由に本を楽しむことを望む保護者もいる

<保育園における児童の読書習慣>

- ・親子での読書のすすめ
- ・自分で選んだ本を楽しんで読む

<図書館の魅力的な棚作り>

- ・テーマ別の棚作り(好きな本を探しやすい)
- ・同じテーマで異なる難易度の本を並べる
- ・子どもの興味を引く仕掛けをする

(2) ユニバーサルデザイン部会の活動報告

① 勉強会

議 題:図書館に必要な福祉的な視点について

「障害がある方も利用しやすい図書館とは」

講 師:地域生活支援センターこまくさ管理者 内藤 正樹さん

日 時:令和7年1月 17 日(金)14:00～

内 容

○障害の種類、生活機能について

○合理的配慮とは

○情報をキャッチすることが難しい方への情報提供の工夫

⇒・障害特性を理解することにより、適切な対応ができる

・障害を理解し対応することで相手の受け取り方が違う(スタッフの障害への理解の重要性)

○ハード面への工夫と施設整備の重要性

○市民図書館の要改善箇所を協議

- ・点字ブロックやエレベーターの利便性改善
- ・ベビーカー、車椅子拡大読書器の案内表示の改善
- ・オストメイトの設置
- ・授乳室や授乳関連施設の整備
- ・車いすマークやお知らせボタンの設置
- ・筆談ボードやピクトグラム使用の促進必要

② 先進地視察 (※みんなの図書館部会の報告に含む)

(3) みんなの図書館部会の活動報告

先進地視察

視察先:まなびの杜ののいちカレード（石川県野々市市）、石川県立図書館(石川県金沢市)

視察日:令和7年3月6日(木)

<まなびの杜ののいちカレードについて>

① 施設整備

○図書館＋生涯学習施設の融合

→ 図書館を中心に配置し、周囲に生涯学習施設を配置することで、図書館をきっかけに多様な活動へ誘導。

○施設の役割分担と連携

・カレード＝きっかけを生む場(個人の学びや関心を刺激)

・公民館(カミーノ)＝発展・継続の場(サークル活動など)

→生涯学習をきっかけに、公民館活動など地域活動への発展を想定。

② 設備・空間デザイン

○書架の設計方針

・棚は基本的に固定式(耐震性の確保)

・書架は従来型の分類方法に従って構成。テーマ展示は学習スペース付近で展開。

○施設中央の「本のタワー」は、見せる閉架書庫として建築家の意図を反映したシンボリック存在

○児童書コーナー中央にイベントスペース(円形の小上がり)を設置

→ 吊り下げ式のパオで空間を緩やかに仕切り、中の様子が分かり。出入りもしやすい。

③ 利用ルール・運営システム

○飲食に関するルール

・蓋付き飲み物は館内 OK

・食事は専用スペースのみ可

○貸出・返却処理の効率化→レファレンス対応に注力

・自動貸出・返却システム

・館内外に返却ポスト設置(館内には高さ違いの 2 種類を用意)

・返却本は IC タグで即時仮返却処理→職員が後で本返却処理を実施

・返却ボックスの裏側に事務室を設け、即処理可能な動線を確保

○予約本受取スペース、読書通帳、サイネージ、本の消毒機、ロッカー、自販機

④ アクセス・来館者配慮

- 優先駐車場は入り口近くに設置、屋根付き通路でスムーズな入館が可能
- コミュニティバスの停留所を敷地内に設置
- 子ども用カートに目立つ旗を付け、所在確認がしやすい工夫
- 子ども靴脱ぎスペースの外側に大人用ソファを配置(見守りやすい向きに配慮)

⑤ 将来対応・柔軟性の確保

- 10年後の利用環境を見据えて設計することが重要
- フリースペースの多用途対応
 - ・可動棚を配置し、用途に応じてギャラリー等に転用可能なレイアウトに対応

<石川県立図書館について>

① 施設整備

建設期間:令和元年9月～令和4年2月

開館:令和4年7月16日

場所:金沢市小立野の旧金沢大学工学部跡地

規模:地上4階、地下1階

延床面積:約22,380㎡

その他:令和6年度の来館者数は119万人、都道府県立図書館として2年連続日本一。

② 設備・空間デザイン

○閲覧席

- ・約500席(多種多様な椅子を設置)
- ・本棚間スペースに椅子配置:こもり感と快適性を両立

○書架

- ・円形閲覧空間:12のテーマで本との偶然の出会いを演出
- ・円形閲覧空間の外側:従来型の分類に従った展示。

○エリア別特徴

- ・子どもエリア:アスレチックや滑り台を設置。床は拭きやすい仕様。他エリアと区切って配置
- ・4階(最上階):貴重資料やビジュアル重視の本を設置。天井が低く隠れ家的空間。
- ・庭スペース:本の持ち出し可能/屋外イベントも開催可

③ 利用ルール・運用システム

- おしゃべりOK。エリアごとにグラデーションで区別(モラル重視)

④ 将来対応・柔軟性の確保

- DVDブース:作り付けにせず、パーティションで対応(将来の用途変更を想定)

報告に対する主な意見

- ・複合施設は使用しない部屋が出てくるとさみしい印象になってしまい、難しい。
- ・市内の他施設も含め、将来を見越して慎重に検討する必要がある。

2 図書館のコンセプトの検討

「望ましい図書館像」のコンセプトに関する意見やアイデアなど

<蔵書に関すること>

- 身近に本が手に届きやすい環境
- 中高生や若者向けのテーマをたくさん並べる
- 本を探しやすく、新たな本と出会いやすい展示・配置
- 飛び出す絵本など特徴のあるもの
- 表紙を見せる置き方

<建物に関すること>

- 明るくて居心地の良い図書館
- 遊び心のある建物
- 隠れ家的な建物
- 子育て世代が利用しやすい施設
- どの世代にも優しい施設

<機能に関すること>

- 居場所としての機能
- フリースペース
- セルフサービスのカフェ
- 飲食スペース
- 親子で楽しめるスペース
- 図書館ごとの特徴(蔵書など)、色分け
- 開館時間の検討
- 交通手段(コミュニティバスなど)
- 空間の共有(病院の待合やスーパー銭湯との併設など)